

◆◆ 編集後記 ◆◆

杉並区立済美教育センター統括指導主事 大島 晃

杉並区教育ビジョン2012の推進に向けて、各学校においては特色ある教育活動を念頭に、「生き方を学ぶ教育活動」や「土曜授業」等に、地域の人的・物的資源の活用など工夫を凝らして取り組んでいます。また、特別活動における学校行事についても、保護者、地域、異校種など様々な人とのかかわりを重視して更なる充実を図ってきています。

本書の実践編にあるような価値ある教育活動を立ち上げる時には、教育課程の中での本活動の意義を教科等横断的な視点で検討して、その活動において子どもたちに育むべき力を義務教育9年間における系統性、連続性をもって設定し、具体化するための指導方法、指導体制を構成しながら、地域の方々など支援者と協働していくための調整を図るといった、相当な労力と時間を要します。その中にあるにしても、子どもたち一人ひとりの未来に必要とされる力の育成のためにと教師や保護者、地域の支援者の熱意をもって創られています。

しかしながら、創設当初の意義や熱意を十分継承した活動を続けていくことには、また別の労力や時間が必要です。活動が何のためにあり、何の力を高め、それを何につなげどう生かしてほしいか。各教科等の目標や内容の系統性、方法の連続性のみならず、それらの教科等横断的な総合性を研究し尽くす。学校の大切な行事となり、後輩たちに受け継がれていく未来を描いて創り出す活動は、木に例えれば太い幹となり、枝葉が豊かに繁茂するように、子どもたちと教師、その活動を支える方々が思いを尽くした結晶です。時々々の流行を含め、様々な活動を取り入れては捨ててを繰り返した試行錯誤の結果です。「例年通り」にと、たやすく実施できるものではありません。

本書を参考に、自地域の特性を生かした新たな教育活動の創設も願うところですが、それ以上に今現在行っている価値ある活動を改めて見直し、その価値を高めていただきたく思っております。その見直しのポイントとしては、①本活動の意義を本活動に関わる学校・保護者・地域等全ての大人が理解した上で協働できているか、②本活動での学びを他につなげ、生かす計画があるか、③子どもたち一人ひとりの自地域における「主体的・対話的で深い学び」となっているかなどが考えられます。要は、本活動が各教科等で育てている力を補充したり深化したりするものとなっていて、全ての子どもたちの力が、本活動後に確実に高まり次に生かされるかどうかです。評価の在り方も含めて改善してほしいと思います。こういった考え方は、学習指導要領の改訂に伴い導入される様々な教育内容を、一時の流行から普遍的価値あるものへ高めていくことにも貢献します。これら一つひとつに新たな活動を創設して対応することには限界があることから、上述したポイントを基に既にある活動の見直しを図り、その活動の価値を最大限に高めて生かすことが良策と考えます。

さて、「すぎなみ9年カリキュラム」は、本書で4冊目（国語、算数・数学、外国語教育、総合的な学び編）となります。本区の小中一貫教育は、「全ての子どもに、よりよい人生を切り拓く基盤を確実に築く」ことをねらいとしており、その手段として『「つながり」と「生かし合い」の学習指導』を掲げ、「すぎなみ9年カリキュラム」はその具現化のための教師の指導の手引きとして作成してきました。本区の小中一貫教育は、〇〇小学校と〇〇中学校の教育、〇学年・〇学級の教育であることには違いありませんが、何より大切なのは、子どもたち一人ひとりにとっての義務教育9年間を通した学びです。総合的な学び編によって、「他者と共に 学校と共に まちと共に 在る 学びと成長」が更にクローズアップされ、従来の学校の限界を超えて、子どもたち一人ひとりの学びの機会がより一層保障されることを期待しています。

結びになりますが、本書の作成に携わった平成28年度 杉並区教科等教育推進委員会 総合的な学び特別部会の委員の皆様をはじめ、実践編の取材や寄稿に快くご協力いただきました多くの方々に厚く感謝申し上げます。

平成29年3月

◆◇ 平成28年度 杉並区教科等教育推進委員会 総合的な学び特別部会 ◇◇

	名前	所属	職	担当
委員	齋藤 志乃	下高井戸子供園	園長	事例1-1 交流給食
委員	高橋 浩平	杉並第四小学校	校長	事例2-2 キャリア教育
委員	遠藤 武司	高井戸第二小学校	校長	事例2-6 防災教育
委員	山内 清一	杉森中学校	校長	事例3-1 外国語教育
委員	渡邊 裕子	宮前中学校	校長	事例2-5 共生教育
委員	新井 雅晶	西田小学校	副校長	事例2-4 まちづくり
委員	渡邊 泰祐	西宮中学校	副校長	事例2-6 防災教育
委員	東口 孝正	済美養護学校	副校長	事例4-1 交流及び共同学習
委員	渋谷 里美	神明中学校	主幹教諭	事例3-3 特別活動
委員	中野 富雄	杉並第八小学校	主任教諭	事例2-3 まちづくり
委員	古野 博	井荻小学校	主任教諭	事例2-1 理科・環境教育
委員	山田 真利江	済美小学校	教諭	事例4-2 交流及び共同学習
委員	岡部 洋右	久我山小学校	教諭	事例2-5 共生教育
委員	本間 水月	阿佐ヶ谷中学校	教諭	事例3-2 まちづくり
委員	小川 恵	神明中学校	教諭	事例3-3 特別活動
事例提供	山村 あずさ	富士見丘小学校	主任教諭	事例2-7 特別活動

全て平成29年3月1日時点

◆◆ 杉並区立済美教育センター（事務局） ◆◆

職	名前	担当
統括指導主事	大島 晃 (主担当)	編成方針、企画・編集 編集後記
	手塚 成隆	事例 3-3 すぎなみ小・中学生未来サミット 担当
	佐藤 正明 (就学前教育担当課長)	事例 1-1 就学前・幼保小連携教育 担当
幼児教育推進チームリーダー	藤川 ゆり (杉並区立堀ノ内子供園副園長)	事例 1-1 就学前・幼保小連携教育 担当
教育長付 ／済美教育センター所長付 主任研究員	山口 裕也	編成方針、企画・編集、 総説、小中一貫教育 理論編 総合的な学び 理論編、事例 巻末資料 等
指導主事	川畑 淳子 (主担当)	事例 1-1, 2-5, 2-7, 3-3 編集
	森 勇人	事例 2-2, 3-1 編集
	保土澤 尚教	事例 2-6, 4-1, 4-2 編集
	小熊 隆一	事例 2-1, 2-3, 2-4, 3-2 編集
准指導主事	古澤 隆信	事例 2-2 支援
	勝呂 創太	事例 2-1 支援
ICT 研究員／ 教育行政長期実務研修生 (平成 27・28 年度)	齊藤 勝	ICT 関連 支援
教育指導係長	落合 健太郎	事務

全て平成 29 年 3 月 1 日時点

すぎなみ9年カリキュラム

—全ての子どもに、よりよい人生を切り拓く基盤を確実に築く「つながり」と「生かし合い」の学習指導

総合的な学び編

—他者と共に 学校と共に まちと共に 在る 学びと成長

平成29年3月発行

編集・発行 杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター
〒166-0013 杉並区堀ノ内二丁目5番26号 電話 03(3311)0021

Lifelong Integrated Learning and Reciprocal Education



No One Left Behind / Universalization